

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業 実績総括表

(単位：円)

事業主体	事業項目	事業名 (内容)	事業費	うち支援金
伊那市	みんなの暮らしを守る森林づくり	松枯損木特殊伐採処理事業 (国県補助の対象とならない特殊伐採の実施)	3,054,073	3,003,000
駒ヶ根市	木を活かした力強い産業づくり	林道補修事業 (国県補助の対象とならない林道の局部改良)	1,895,300	1,260,000
辰野町	木を活かした力強い産業づくり	木製遊具製作業務 (町内保育園への木製遊具の設置)	1,126,400	1,059,000
箕輪町	木を活かした力強い産業づくり	林道整備事業 (国県補助の対象とならない林道の局部改良)	2,150,689	977,000
飯島町	みんなの暮らしを守る森林づくり	林道安全施設設置事業 (国県補助の対象とならない林道の局部改良)	1,100,000	663,000
南箕輪村	木を活かした力強い産業づくり	地域材利用促進事業 (村内保育園への木製遊具の設置)	770,000	720,000
中川村	木を活かした力強い産業づくり	県産材利用促進事業 (村内保育園への木製ロッカーの設置)	1,100,000	673,000
宮田村	木を活かした力強い産業づくり	林道整備事業 (国県補助の対象とならない林道の局部改良)	3,575,000	590,000
合計			14,771,462	8,945,000

※ 添付資料

① 各市町村別「令和 3 年度森林づくり推進支援金事業総括書」

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	伊那市
----------	-----

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松枯損木処理事業
事業費 3,054,073 円 (うち支援金: 3,003,000 円)		

事業目的

- (1) 地域の森林・林業の現状と課題
松くい虫被害は年々被害が拡大しており、大径木や建物・道路付近、被害先端地山中の松枯損木については通常の伐倒が困難なため、特殊伐採が必要になるケースが増加している。
- (2) 本事業の目的
特殊伐採による松枯損木処理を実施することで、松くい虫被害の拡大を抑えると同時に、倒木による被害を未然に防ぐこと。

事業内容

- (1) 実施場所 伊那市松枯損木処理業務実施場所で、特殊伐採を要する場所
- (2) 対象者 市内の森林所有者及び松枯損木処理委託業者
- (3) 実施方法 建物・道路付近や大径木、被害先端地山中の松枯損木処理で、松林健全化事業及び保全松林緊急保護整備事業（衛生伐）の補助対象にならない特殊伐採処理を行なう。
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画（平成 30～令和 4 年度） 交通量の多い道路沿いや住宅付近などで、特殊伐採が必要のなる箇所について事業を実施する。
 - ②令和 4 年度実績
伊那市御園白山神社（破砕・特伐）、伊那市美原（破砕・特伐）、伊那市美篤上原公民館南（特伐）
事業費 3,054,073 円



事業効果

(1) 事業実施による効果

建物付近や道路沿い、山際等に発生した松枯損木は、通常の伐採では対応できず、重機の使用やツリークライミング等の特殊伐採を積極的に実施し、倒木による被害を未然に防ぐとともに、松くい虫被害の拡大を抑え健全な森林づくりを推進する。

処理木の搬出が困難な場所で多量に発生した枯損木については、搬出路を設置し搬出・破砕処理を行うことで森林環境の悪化を防ぐ。

(2) 継続性

松くい虫被害は、道路沿いや山際など特殊伐採を必要とする森林に沿って拡大する傾向があるため、継続して事業を実施することにより松くい虫被害の拡大抑制と倒木による被害の防止を図る。

(3) 普及性

特殊伐採を実施し、危険な松枯損木を処理することで、市民の暮らしを守り、里山の森林整備を推進することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

本事業については、建物や施設に倒木による被害を及ぼしそうな箇所及び松くい虫被害の先端地で松くい虫枯損木の特殊伐採処理を実施し、松くい虫枯損木の倒木による被害や松くい虫被害の拡大を抑えることができた。

(2) 課題

補助事業として対応できない松くい虫枯損木処理は年々増加傾向にあり、財源の確保が課題となっている。

・推進支援金と市単独事業費	平成28年度	11,756,060円
	令和3年度	13,278,203円

(3) 今後の取組方向

■事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

松くい虫被害の拡大に伴い、補助事業として対応できない松くい虫枯損木処理が増加する傾向にあるため、今後も引き続き事業を継続する。

□事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

□事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	駒ヶ根市
----------	------

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	林道補修事業
事業費 1,895,300円 (うち支援金: 1,260,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

駒ヶ根市における森林面積は 12,477ha であり、総面積の 75% を占める。そのうち民有林面積は 9,111ha である。民有林の人工林面積は 4,743ha で、人工林率は 52% となっている。

(2) 本事業の目的

上記の現状と課題に対し、木材生産を進める森林における適正な林道管理により、計画的な森林施業の実施促進を支援する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 林道古城線、林道上耕地線、作業道桃洞線

(2) 対象者 駒ヶ根市

(3) 実施方法 公共補助林道事業の対象とならず維持管理及び補修事業でも実施できなかった側溝修繕工事、フトン箆設置工事、舗装修繕工事、横断側溝設置工事を実施する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

① 全体計画 (平成 30 年度～令和 4 年度) 総額 12,500 千円の事業計画により維持管理等を行う

② 令和 4 年度実績 林道補修事業

林道古城線

側溝修繕工 L=4.0m

フトン箆設置工 3 段積み L=2.0~3.0m

林道上耕地線

舗装修繕工 A=41.6 m²

作業道桃洞線

横断側溝工 L=7.3m



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

林道の維持管理及び補修を実施することにより、計画的な森林施業の実施促進が期待できる。

(2) 継続性

維持管理が適切に行なわれていない林道は災害等に脆弱である。例えば、降雨による路面洗堀や、落葉及び落石などによる水路閉塞等が引き金となり被災しやすい。また、復旧までに時間を要し本来の目的の達成が困難となることから、災害等を未然に防ぐ取組みとして事業効果の継続性を発揮できる。

(3) 普及性

林道は登山やトレッキングにも活用され、観光振興の観点からも重要である。また、民有林における人工林の搬出間伐を進めていく中で重要な位置づけであり、林道を基幹に作業道開設等も行なわれるため、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

アンケートの結果より、市民が安心して利用できる林道整備が引き続き必要である。また、横断側溝設置を実施したことについて評価を得た。

(2) 課題

今後、森林整備を進める上で大型車が通れるような林道整備を行っていくことが課題。また、今回の林道整備について、安全に通行ができ、山の利用価値も向上するとの評価を得た。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

辰 野 町

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	木製遊具製作業務委託
事業費		1,126,400 円 (うち支援金: 1,059,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

県産間伐材の普及が活発ではなく、林業が停滞気味である。また、次世代への担い手不足も否めない状況である。

(2) 本事業の目的

((1) の課題への対応方向について記載)

町内の保育園に県産材を用いた木製おもちゃを設置し、園児に利用してもらうことで、県産材木製品の普及・啓発を図ります。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

辰野町内保育園

(2) 実施方法

県産材を活用した木製遊具の製作及び設置

(3) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30 年～令和 4 年度)

しだれ栗森林公園管理棟デッキ修繕工事

しだれ栗森林公園案内板更新

ほたる童謡公園防護柵改修工事

しだれ栗森林公園てんぐ荘入口階段修繕工事

しだれ栗森林公園内防護柵設置工事

②令和 4 年度計画

木製遊具製作業務委託



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

県産材の木材を使った木製品であり、より親しみを持っていただけるとともに、木製品の温かみや優しさを伝えることもでき、木の良さを知ってもらうきっかけとなる事が期待できる。

(2) 継続性

子供のころから木材に親しむことで、森林の大切さを継続的に育んでいくことが期待できる。

(3) 普及性

保育園児に日頃から木製品を使い触れていくことで、木材の良さが伝わり、今後の発展に寄与することが期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

長野県産材スギを用いた積み木及びレーンパネルは、非常に触り心地が良い為、木の良さを知ってもらう第一歩として、非常に有効な事業だと考えている。

(2) 課題

置き場所に困るというような声もあるので、現場で収納に困らないようなものを考えていかなければならない。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

箕輪町

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	林道整備事業
事業費 2,150,689 円 (うち支援金: 977,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

森林の整備や維持管理等のために活用している林道について、度々風雨による倒木や落石、土砂崩れが発生している。また、土砂や落葉等の詰まりにより林道を維持するための施設も不具合が生じやすいため、定期的な維持管理が必要である。

(2) 本事業の目的

林道の適正管理により林道の被災等を未然に防ぎ、作業員・一般観光客等の安全な通行を確保し、森林資源の有効活用を目指す。

事業内容

(1) 実施場所 箕輪町内の林道

(2) 対象者 森林所有者、林業事業者、一般観光客

(3) 実施方法 公共補助林道事業の対象とならない林道の維持管理及び修繕を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 2 年～ 4 年度)

利用頻度の高い林道や、危急度の高い修繕箇所について優先的に整備を行う。

②令和 4 年度実績

林道中樽線 排水施設整備工事

工事前



工事後



事業効果

(1) 事業実施による効果

林道の適正な維持管理により、通行者の安全が確保され、森林資源の有効活用、森林整備の推進が図られる。

(2) 継続性

林道は降雨により路面洗堀され、土砂・落葉等により林道施設が不具合を起しやすく、林道災害の発生につながる。適正な維持管理を継続することにより、甚大な災害発生を未然に防ぎ、計画的な森林資源の利活用につながる。

(3) 普及性

林道は生産森林組合や地元の区が森林整備等で常時活用しており、一部の林道は観光地である萱野高原への道として町内外からの観光客も通行するため、幅広い県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今回工事を実施した場所は、もともと沢から流れ込む雨水等が林道の路肩に設置されている側溝により 20 メートル程度流れた後に、林道を横断する暗渠により河川へ排水されていた箇所となる。しかしながら、路肩設置の側溝は流下能力が低く、大雨の際などには側溝から溢れた雨水が林道の路面を流れ、林道の路肩等を侵食することがあった。

そのため、沢から流れ込む雨水等を直接河川へ流すための横断側溝を整備することにより、森林所有者、林業関係者、観光客が安全に通行できる林道整備を行った。

(2) 課題

近年、豪雨や台風による林道の被害が多発しており、復旧箇所が増加している。また、従来の施設（雨水処理施設など）では対応しきれない状況も発生しており、整備すべき箇所が増加し、対応が追い付いていない。林道の使用者になるべく支障が出ないように対応することが課題である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

令和 5 年度以降の森林づくり推進支援金の活用方針等を踏まえて必要な対応を行う。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

飯島町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	林道安全施設設置事業
事業費 1,100,000円 (うち支援金:663,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

飯島町における森林面積は 6,274.72ha であり、総面積の 72%を占めており、民有林面積は 3,210.58ha で 51%を占めている。なお、アカマツ、カラマツ、スギ及びヒノキを主体とした民有林の人工林面積は 1,673.48ha であり、人工林率 52%となっている。

(2) 本事業の目的

上記の現状と課題に対し、木材生産を進める森林における適正な林道管理により、計画的な森林施業の実施を支援し、均衡のとれた健全な林分造成を目指すものとする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 林道辰巳ヶ沢入線

(2) 対象者 飯島町

(3) 実施方法 公共補助林道事業の対象とならない安全施設(ガードレール)を林道辰巳ヶ沢入線に設置した。

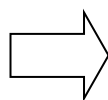
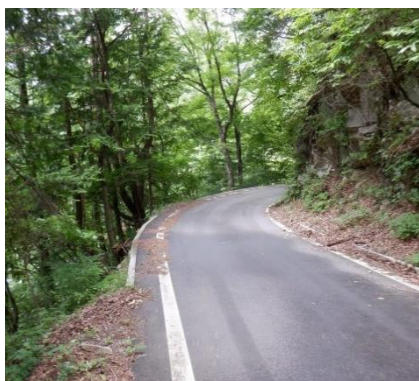
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(令和 2~6 年度)

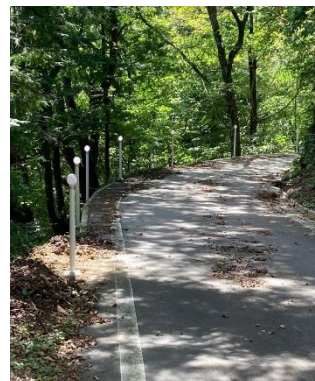
飯島町 5 カ年計画により、令和 2~6 年にて総額 7,000 千円の事業計画により適切な維持管理を行なっていく。

②令和 4 年度実績

林道辰巳ヶ沢入線 安全施設設置工(デリネーター、ガードレール) 1,100 千円



デリネーター
設置工



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

林内路網の基幹となるべき林道の安全対策の向上を図ることにより、搬出間伐の増大が期待できる。

(2) 継続性

当該路線は地元の身近な里山として、近年登山客が増加している。一般車も多く通行する林道であることから、事故・転落等を未然に防ぐ取組みとして事業効果の継続性を発揮できる。

(3) 普及性

林道は里山等の登山路及びトレッキング等にも活用され、観光振興の観点からも重要な路線である。また、民有林における人工林の搬出間伐を進めていく中で重要な位置づけであり、林道を基幹に作業道開設等も行なわれるため、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

林道における通行の安全対策を実施することにより、搬出間伐の増大が期待できる。また、アンケートの結果でも転落防止につながるといった意見があった。

(2) 課題

落葉及び落石などによる施設の損傷及び効果の半減等が起こる可能性がある。災害や事故等を未然に防ぐためにも適切な維持管理を継続的に実施していく。

アンケートには落石が目立つため落石対策も必要だという声やカーブラミラーが欲しい場所があるといった意見があった。これらを踏まえた対策を今後行っていく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

引き続き、当該林道の安全施設の充実を図っていくが、落石への対策を検討していく。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

南箕輪村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	地域材利用促進事業
事業費 770,000 円 (うち支援金: 720,000円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

アカマツを主とした大芝村有林は、近年松くい虫の被害が甚大であり枯損木として処理されています。

古くから村民を中心に親しまれてきた森林であるため、単に松枯れ等で処分されるだけでなく、材として有効活用していくことも必要であると考えます。

(2) 本事業の目的

(1) の課題への対応方向について記載)

アカマツを含む地域材を使った木製品おもちゃに触れてもらい、子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育ていくとともに、地域材の普及・啓発を図ります。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 南箕輪村 (保育園ほか)
- (2) 対象者 南箕輪村
- (3) 実施方法 地域材おもちゃを作成し、保育園等へ設置する。
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画 (令和 4 年度)
地域材おもちゃの作成
 - ②令和 4 年度計画 (実績)
地域材おもちゃの作成 (森のままごとキッチン)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

(事業目的に対応する効果について記載)

アカマツを含む地域材を使った木製おもちゃであることで、より親しみを持っていただけると共に、木製品の温かみや優しさを伝え、地域材の利用へつなげる。

(2) 継続性

(事業又は事業効果の継続性、発展性について記載)

地元をはじめ広域的な活用も検討していくことにより、将来的に更なる地域材の有効活用を図る。

(3) 普及性

(事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載)

地域材を用いた木製品を実際に見て触れていただくことで、それらの温かみや良さが伝わり、今後の地域材の活用につながる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

地域材を用いた木製品に触れてもらうことで信州大芝高原みんなの森の紹介や地域材木製品の良さの周知に期待できる。

(2) 課題

これまで地域材有効活用に関する事業を多くは行っていないため、継続的な事業として財源確保や木製品利用の必要性をさらに深めることが課題である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

村の木材の有効利用や活用方法を常に検討し、計画性を持った事業を継続的に実施していきたい。

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村 名	中川村
----------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い 産業づくり」に関する 事業	県産材利用促進事業
事業費 1,100,000 円 (うち支援金: 673,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

中川村に広がる山林は地域の共有林として管理され個人に分割された森林が多いが、近年森林所有者の山離れが進み、整備が行き届かず放置された森林が目立つようになっている。木材価格の低迷や、次世代の担い手不足等も課題となっている。放置森林が増えることによって地域への鳥獣被害が深刻な問題となっており、長期的な視野を持った、早急な対応が求められる。

(2) 本事業の目的

県産材の利用促進を図るため村内の公共施設に県産材を利用した設備の充実を促進する。特に今事業実施の片桐保育園のロッカーは長年の使用により傷みが目立つようになっている。今回県産材を利用したロッカーに更新することで、園児にも木の温もりを直接感じてもらい、愛着をもって使用する心を養いたい。また、木材に触れてもらい、森林や自然への関心を持ってもらう機会が増えるようにしたい。

事業内容

(1) 実施場所 中川村 片桐保育園

(2) 対象者 中川村

(3) 実施方法

- ・県産材を使用した木製ロッカーの設置

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 4 年度)

- ・片桐保育園ロッカーの木質化



事業効果

(1) 事業実施による効果

本事業の実施により園児に木製品のぬくもりや利便性を感じてもらい、木材への関心を高めてもらうと共に保護者にも森林整備の必要性などがPRできる。

(2) 継続性

村内の公共設備の更新や周辺森林の整備など、関係機関と連携しながら継続的に事業を進めていく。

(3) 普及性

保育園のロッカーを、県産材を利用して木質化することで、来園者や保護者にも広くPRすることができる。特に園児は毎日利用する物なので、木の温もりを肌で感じてもらう事ができ、木育につながり大きな普及効果が見込まれる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

園児が毎日直接手に触れるロッカーを木製にすることで、木の良さを感じてもらうことができた。また、近隣で伐採した木を使っていることを保育の中で教えたことで、より愛着を持って使用してもらうことができています。園児や保護者にも木材や自然環境についてより身近に感じてもらえるような環境整備ができた。

(2) 課題

木製品である為、表面を保護するための塗料の塗布など定期的なメンテナンスが必要となる。時間が経過すると共に木材特有の色合いに変化していくのを楽しみながら、長く大切に使用してもらいたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

今後も村内公共施設の要望も取り入れながら整備を進めていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 4 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

宮田村

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	林道整備事業
事業費 3,575,000 円 (うち支援金: 590,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

計画的な間伐材の搬出及びトラックでの運搬時に、たびたび土砂崩落による林道の災害が起り、間伐作業及び運材車両の通行に支障をきたしており、林道の被災等を未然に防ぎ、安全な車両の通行確保が求められる。

(2) 本事業の目的

計画的な間伐材生産を進めるため、災害等を未然に防ぎ、間伐材の搬出作業及び木材運搬車両の安全な通行を図る。また、林道終点にある宮田高原キャンプ場の利用者への利便を図る。

事業内容

(1) 実施場所：林道寺沢線

(2) 対象者：林業事業体、一般観光客

(3) 実施方法：林道脇に県産間伐材の丸太を利用した落石防護柵を設置し、林道法面から崩落してくる巨石、土砂を路面手前で防護する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (令和 4～令和 6 年度)

年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
丸太防護柵	延長 L=16m	延長 L=6m	0

②令和 4 年度実績

落石防護柵設置工事 L=16.0m

落石防護柵



事業効果

(1) 事業実施の効果

落石防護柵設置工事を実施することで、通行車両の安全が確保され、森林整備や観光客誘致の推進が図られる。

(2) 継続性

防護柵を設置することで重機による毎年の土砂撤去費用が軽減される他、通年安全対策が図られ、今後の森林整備の計画的な実行が図られる。

(3) 普及性

計画的な搬出間伐を進めていく上で重要な路線であるとともに、避暑地あるいは憩いの場として利用される宮田高原へのアクセス道路として観光振興の観点からも重要な路線であり、多くの県民への恩恵が期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

林道を整備したことにより、林道の保全及び、林産物搬出・造林等林道関係作業車両ならびに宮田高原キャンプ場の利用者の交通の円滑化・安全が図れた。

(2) 課題

例年、豪雨による落石等もあり、定期的な点検と管理が必要である。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

引き続き、林道が安全に走行できるように林道整備を実施していく。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
丸太防護柵	延長 L=16m	延長 L=6m	0

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)